

病的賭博患者の特徴 —— 1 医療機関を受診した 105 例の検討から ——

太田 健介

Kensuke Ohta : The Characteristics of Pathological Gambling Patients
: A Study of 105 Pathological Gamblers Treated at a Psychiatric Institution

病的賭博は破産、犯罪、離婚、自殺など深刻な問題を引き起こす疾患であり、本邦でも患者数の増加が指摘されている。しかし、本邦の病的賭博患者の特徴に関する、多数例のデータに基づく研究は未だない。本研究の目的は、病的賭博患者の特徴を、本邦の患者のデータに基づいて正確に理解することである。そのために、同症患者 105 例の属性、賭博行動、負債、罹病期間、合併症、家族歴、生育歴など多項目について後方視的診療録調査と統計学的検討を行った。その結果、次の特徴を認めた。病的賭博患者は、若～中年の男性に多く、一般人口に比し高等教育修了者、離婚者の割合が統計学的に有意に多く、無職者は一般人口の 6 倍であった。患者の 4～5 割にアルコール依存症や感情障害の合併症と家族歴、養育歴上の問題を認めた。更に、半数以上が 10 歳代で賭博を開始し、2 割強では賭博開始後 2 年未満でコントロール障害が生じていた。また、女性患者は男性よりも賭博開始年齢が有意に遅く、気分の落ち込みや不安などの訴えが有意に多かったが、発病までの期間には性差を認めなかった。患者の 3/4 はパチンコのみを行い、95 % が負債を有し、3 割以上が法的債務整理に至っていた。コントロール障害出現後の期間と負債額の間には統計学的に有意な正の相関関係を認めた。以上より、病的賭博者の特徴として 10 項目を記述した。特に、患者の多くが未成年で賭博を開始し、罹病期間と負債額との間に相関関係を認めることから、今後は若年者を対象とした予防及び早期発見の取り組みが望まれる。

<索引用語：病的賭博，ギャンブル依存症，addiction，うつ病，アルコール依存症>